

水を守った弥次平物語

太子町阿曾

これは阿曾村に伝わるお話です。

一七八九年（寛政時代）のこと。昔から太子町はかんばつで有名な土地でした。この物語は、そのころのお話です。

阿曾・下阿曾・立岡・矢田部の4つの村は、林田川の水を「阿曾岩せき」でせきとめて、水田をうるおす水を引いていました。ところが、林田川の水の量は少なくて、日でりが続くとたちまち水不足になってしまいました。

幸いなことに、「岩せき」の少し北、誉田小学校の南の林田川に揖保川から引かれた「横せき」がありました。

この水を、「岩せき」に落として、何とかおぎなっていました。

「岩せき」の南にある石海地区の人たちも、この「横せき」の水をあてにしていました。

そのため、かんばつになると水あらそいがたえませんでした。

この夜も…

阿曾・立岡・矢田部の人たちが水をせきとめたので、「岩見井組」の人たちが、おおぜいでやってきて、「横せき」を切り落としてしまったのです。すぐに4つの村（阿曾・



下阿曾・立岡・矢田部）が集まり相談しました。その時、こっそりぬけ出したのは、弥次平さんでした。

「このままでは、どうしようもない。わしの身をぎせいにしても、村の水を守るんだ！」
「このせき、落とせるものなら、落としてみよー！」

こうして、弥次平さんは、せきの上に横たわり、一歩も動かなかったのです。

「岩見井組」の人たちも、この水がなければたちまちこまってしまいます。

村々は、もう大さわぎです。

この事件があったから、広山村（たつの市誉田町）と阿曾ほか4つの村がやくそくをし、

「横ぜき」の水が、永久に「岩ぜき」にも引かれることになったのです。



阿曾井堰（揖保郡太子町阿曾）



この青いゲート施設が現在の横ぜき（たつの市誉田町広山）

